

Handsome

発行人：鳥取県西部中小企業青年中央会 会長：浜田一哉 編集責任者：野嶋 功 印刷所：東京印刷株式会社

1月例会報告

平成16年1月15日(木)、米子コンベンションセンター小ホールにて国際交流委員会担当による1月例会が開催された。冒頭、浜田会長より挨拶があった。年末から年始にかけて残念なニュースが続いていたため、「企業人として、人として、また家族の長としての決断と責任の重さ」を切々と説かれた。



続いて、新入会員の須山裕文氏にバッジ授与が行われた。委員長タイムでは水30周年記念事業委員長が、自ら経験した20周年の背景や当時の想いをもとに30周年の事業タイトル「自律」を語り、『会員全員で周年を行い、意義ある事業にする必要がある。』と締め括った。

講演に先立ち、松浦国際交流委員長より『今年は中国+1(タイ)に目を向けている。この講演を機にヒントが得られればとおもう。』との趣旨説明があった。今例会の講師には国際協力銀行企業金融部・中堅中小企業支援室参事役 辻井渉(つじい・わたる)氏をお招きし、「日本企業のアジア向け投資動向」という演題で講演が行われた。

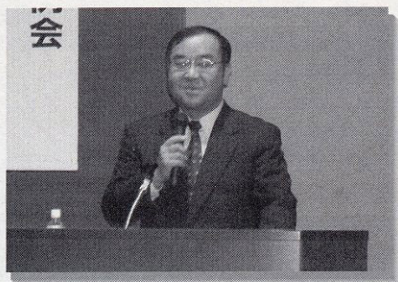
☆国際協力銀行とは？

企業活動を支援する日本輸出入銀行と、ODA(政府開発援助)を担当する海外経済協力基金を統合し、1999年10月に東京と大阪に2行設立された。

☆日本の通商政策の在り方

「GATT(関税および貿易に関する一般協定) / WTO(世界貿易機構)」を中心とする多角的貿易から、「FTA(自由貿易協定) / EPA(経済連携協定)」への転換が図られている。これは、GATTウルグアイラウンドの「失敗」を受け、グローバルな交渉よりも、先ずは二国間で関税引下げや経済諸制度の調和、連携強化を目指したほうが効率的という考えが主流となったからである。

現在、FTAはアメリカ・ヨーロッパで先導されているため、アジアを守る戦略を作る局面にきている。また、現在までの反省・これからの問題点としては、「生産拠点としてのアジアをどう守るか」「中国・ASEAN(東南アジア諸国連合)のバランスをどう保つか」「日本企業の空洞化をどう防ぐか」等が挙げられる。



1-1. 主要地域別進出企業数

国名	1993	2002	対前年比	増加率(%)
アジア	4,762	10,465	5,718	119.8
ASEAN4	1,799	3,373	2,058	87.5
インドネシア	322	690	480	144.3
マレーシア	549	850	496	54.8
フィリピン	168	452	249	169.0
タイ	760	1,381	833	81.7
NIES	2,200	3,853	1,263	66.0
韓国	282	550	321	95.0
香港	655	1,111	224	69.8
台湾	572	891	447	59.8
シンガポール	691	1,101	271	59.3
中国	659	2,979	2,108	352.0
ベトナム	11	127	122	1600.0
インド	51	180	123	252.9
米国	2,280	3,600	1,210	57.9
欧州	2,153	3,405	759	58.2
世界合計	10,450	19,433	8,210	86.0

(出所：東洋経済、海外進出企業数2003)

上記を前提に、国際協力銀行が2003年までに15回行ったアンケート結果をもとに投資動向を説明された。また、中国・ベトナム・タイにおける日本企業の進出事例や各国特区および優遇措置のケーススタディを話された。最後に、「ご自身のバンコク赴任の経験をもとに『それぞれの国にそれぞれの特徴があり、一度は自分の目で確かめてみると良いとおもう。』と締め括り、講演を終えられた。

質疑応答に移り、多賀地域ビジョン委員長の『世界の工場と化している中国であるが、中国全体が豊かになることはできるか?』という質問には、(あくまで個人的見解と前置きされてから)『難しいのではないかな。目覚ましい経済発展をみせている上海あたりでも発展の光と影は確実に存在する。国家のイデオロギーや世界一の人口がそれを妨げるのではなからうか。』と

答えられた。また、桶村県出向理事の『海外でのプログラミング等、形を成さない分野・業種をどう優遇するのか?』という質問には、『その国ごとに出資比率や国益が異なるために優遇基準は変わってくる。IT分野はこれから。』と答えられた。

30周年に向けての2004年最初の例会は全般的に気概を感じる例会であった。

(広報：中田耕治)

私の大切なもの ~一枚の写真~

私の部屋の壁に1枚の写真が飾ってある。写っているのは私の20数年前の姿である。

今の私からは誰も想像できないであろうが、私は学生時代にウインドサーフィンをやっていた。青年中央会では足立徹さんだけが唯一私の学生時代の姿を知っている。なぜなら、彼もウインドサーファーであったからだ。写真は当時伊豆の白浜で開催された西武スポーツカップという大会の決勝トーナメント時のものである。この大会は、大会委員長に五輪ヨット競技のスターである小松一憲氏を迎え、ロス・アンジェルス五輪前に行われた。民間企業主催であったが、全日本クラスの高いレベルでの大会となったため全国から多くの競技者が参加していた。

私も当時全日本ウインドサーフィン学生連盟の幹部を務め、実力にも多少自信を持っていた。そして、この大会時の天候・海面の状況は私の得意とする強風のコンディションであり、かなり上位にいけると見込んでいた。しかし、トーナメントスタートのときに私は波に巻かれてしまい、出遅れてしまった。そんなに致命的な出遅れではなかったが、私は何故かそのときレース継続をあきらめてしまったのである。大きなチャンスを目の前にして、学生連盟の仲間からも声援を受けながらである。なぜあきらめてしまったかは今もわからない。『まだ行けるかも。』と気づいたときはもう完全に手遅れであった。そのあと大会委員長の小松氏に声をかけてもらったが、何を話したか今はもう覚えていない。大会終了後、自問自答を繰り返した。結局、私自身の精神面での弱さ・甘えが出てしまったという結論に達した。青春時代に自分自身のあり方というものを真剣に考えた出来事であった。

この写真は、ほろ苦い青春の思い出と現在の自分自身への戒めとして部屋に飾ってある。今の私にとって大切なもののひとつである。



(30周年記念事業：中津尾直己)

専門家の豆知識

今日は皆さんに松葉ガニのことを語ろう。

まずは、「国産・輸入物の違い」から。最近では、国産には産地表示のタグが付いているからわかりやすいが、タグが付いているのは指のそろった大きいサイズのごく一部だけで値段の高いものだけ。甲羅を見て黒い豆粒が付いているのはまず国産と見ていいだろう。輸入物も悪くはないけど、味噌が固まらないのが難点。甘みも国産に比べて少ない。今年はわりと国産が豊漁で安いからみんな食べてようね。

次に、「カニの良し悪し」。カニを裏返して手にとって親指で軽くお腹を押さえてみて硬ければよい。お腹の色が透き通っているようなのはあまりお勧めじゃないね。白くて殻のぎりぎりまで身が入っているようなのがいいね。あと、カニの薬指を押さえてみて張りがあるようなら良い。しかし、やはり素人ではなかなか見分けが付きにくい。中央会には何人か専門家がいたのでその人に聞くのがいいだろう。というか、その人のところで買うのがいいだろう。中央会価格になるかも……。家で食べたりするのは1本ぐらい足が欠けていてもいいとおもうよ。値段がまともなカニに比べて半値くらいになることもあるし。足の欠けたものを買うときには、出来たら欠けた部分がふさがっているものを選んでほうがいいな。鍋とか焼ガニなんかにはいいんだけど、ゆでガニで食べる時にはそこからカニのうまみが抜けちゃうんだ。ちなみにカニ鍋をするときには、だまされたとおもって具を白菜だけにしてごらん。抜群に美味しいカニ鍋になるよ。だしに蜂蜜をすこし入れたりするともう最高。最後の雑炊がなんともいえないおいしさになるよ。

最後に、「松葉ガニが美味しい時期」。値段の高い出始めとか年末よりも、2月の雪の降る寒い時期が身もひきしまつて最高に美味しい。もともとカニは水温の低いところに住んでいるからね。ちなみに、2月下旬には松葉ガニは禁漁になっちゃうから今シーズンに食べたい人は急いで買いに行っておね。その時に奥さんと子供さんとか連れて行って今日僕が語ったことをしゃべってごらん。『すごーい！お父さんって物知りなんだー！！』と尊敬のまなざしで見つめられること間違いなしだ。

偉そうに語ったが、これはあくまでも持論である。異論・反論は心の中で叫んでほしい。次回以降私の出番があるかないかわからないがまた語らしてね。やよいの近くの魚屋でした。

(広報：松江智雄)

ホントニヤクガオチタノカ？ 厄落としの会 アラタニヤクヲショイコンダ？

1月18日(日)、年の始めの恒例行事となった「厄落としの会」が今年も勝田神社にて行われた。久しぶりの晴天の下、御礼参り5名・後厄2名・本厄5名・前厄3名に加え、除霊(?)1名の合計16名が参加。途中、神主から“ものいい”のつく一場面もあったが、神事は滞りなく終了した。

その後、懇親会場である海潮園へと移動。入室を待ちきれない会員一同は、囲炉裏端にて神社でいただいた御神酒で乾杯。入室後、見事除霊を果たした桑垣会員の2度目の乾杯で開宴。いうまでもなく席はおおいに盛り上がりつつあった。

宴もたけなわ、今年本厄の山口会員が土鍋の蓋を杯に見立てイッキ。(良い子は決してマネしないでね!) その見事な飲みっぷりに感嘆した他の会員も右へならえとばかりに同じ蓋杯で回し飲み。宴も体内アルコール濃度も最高潮に達した頃、今年世話役の中島副会長の一本締めで無事「厄落としの会」を終えた。

(政治行政：堀江則夫)



1 月度各委員会報告書

情報メディア委員会

平成16年1月9日(金) 於：日本情報ビジネス専門学校 出席者/6名
内容/上期反省・下期活動についての検討等

ホームページの更新・メンテナンスに関しては、開設から数年がたち、その間の環境変化も考慮すれば「変えるだけでよいのか」という問題が伴う。ただし、毎年同じ議論があって、次々に変化していくことも好ましくないため、大筋を決めることが今年度の課題であると考えた。

主な意見としては、「会員の会社PRや求人」「各会員に2~4M割り当てて店舗を出してもらおう」「商業化は正しいのか？みんなに等しくメリットがあるのか？商業化が必要な会員は会社としてHPを作るべき」「HPの更新を予算化できないか？外注化することで負担軽減できるのではないか」が挙げられる。

来月の委員会では具体的意見を出すように、ということでもとめとした。

政治行政委員会

平成16年1月8日(木) 於：ホールサムインかいけ 出席者/10名
内容/外部講師講演

講師：笹津裕一(のつ・ゆういち)氏

(鳥取県立大山青年の家 所長)

演題：21世紀を担う子供達への学校教育の現状

1. 平成14年度に「ゆとり」をテーマにした教育課程が編成されたが、学力低下の恐れなどについて教員・保護者から異議が唱えられ、今は見直しの段階に入っている。
2. はっきり言って、教員にはピンからキリまでいろいろな人がいる。教員として学力は大事だが、教員の使命を胸に抱いて仕事をすることが一番大切ではなからうか。
3. 平成10年度、鳥取県は小中学校の不登校出現率が全国1位だったが、その後教員同士で協議し、積極的な自宅訪問等により不登校の生徒数は減少してきた。

学校教育の現状を本音で語っていただいた。平成10年度文部省アンケートも踏まえ、「生活体験が豊富な子供ほど道徳観や正義感が充実している」と述べられ、大人になってからでも徳育は必要なのだと改めておもしろがられた。

国際交流委員会

平成16年1月8日(木) 於：米子食品会館 出席者/13名
内容/1月担当例会打ち合わせ等

コンベンションセンターの使用が叶わなかったためリハーサルを伴った委員会とはならなかった。作業進捗度チェックシートと役割別担当者リストをもとにタイムスケジュールと各担当作業の調整を行った。

「今までの例会においてその講師を招聘した目的を理解しづらいときがあった」との発言を受け、松浦委員長による趣旨説明を例会スケジュールに組み込むことにした。

経営委員会

平成16年1月7日(水) 於：ホールサムインかいけ 出席者/13名
内容/下期活動方針決定等

下期に行いたい委員会活動について、先月に引き続き各自より意見を募った。

主なものとしては、「精神修養的なものと実務的なもの2本立

て」「決算書等の読み方」「銀行側から見る決算書等の着目点について(融資の可・不可ラインの判断)」「一般ゴミ・産業廃棄物関連」「信用調査会社が見た倒産状況」「事業計画書の立て方の勉強会=実際に作成してみる」「顧客心理・従業員心理について」等々の意見が挙がった。

地域ビジョン委員会

平成16年1月8日(木) 於：米子食品会館 出席者/9名
内容/下期活動についての検討等

下半期の委員会活動のあり方・方向性について話し合った。

主な意見としては、「焦点を絞って、米子にどんな道や賑わいが欲しいのか考えたら」「会議室で座ってばかりでなく、外へ出て実際に体を動かしてみたら」等があった。結果、大きな地域のビジョンでなく、少し狭い地域のビジョン(皆生温泉)について考えることとした。

広報委員会

平成16年1月8日(木) 於：大連 出席者/10名
内容/ハンサム2月号編集等

ハンサム2月号編集の他に「新規コーナープレゼン」を行った。各委員より多くのコーナー案が出されたが、その中より2つの新規コーナー(「専門家の豆知識」「私の大切なもの」)を次号より採用する。

また、「新年歌会始め」として各会員が歌を詠み、披露した。代表的なものとして、

先輩の 伝える心 大切に

中央会 成功させよう 周年事業

さみしさに 手帳をひらく 四十路過ぎ

があった。

総務委員会

平成16年1月9日(金) 於：海潮園 出席者/11名
内容/12月忘年会反省等

下期の活動方針について説明があった。まず、4月に開催されるレクリエーション例会については運動会を行う予定である。場所は未定だが、雨天時を考慮し、体育館を併設した運動場で行う。具体的な内容については、次月委員会で決定する。次に、30周年記念事業については「記念式典運営・記念ゴルフコンペ」を中心に活動をする。

30周年記念事業委員会

平成16年1月8日(木) 於：米子食品会館 出席者/7名
内容/30周年記念事業企画打ち合わせ

1. 30周年実行委員会の組織編成について
実行委員会の組織案として、「式典」と「支援」のグループの下に計5つの部を編成することとなった。

2. 基調講演講師について

前回に引き続き講師選定となったが、知名度・ギャランティなどの観点から候補者をAとBにグループ分けし、各グループで3名程度選出した。Aグループの候補者を優先して交渉にあたる。

3. 次回委員会について

サブタイトル等については次回へ引き続いて審議となった。

13日(火)には同テーマにて2回目の委員会が行われた。また、26日(月)に第1回実行委員が開催されることとなった。

30周年記念事業実行委員会 進捗状況報告

去る1月26日(月)、米子食品会館にて第1回30周年記念事業実行委員会が開催された。30周年記念事業委員会をはじめ当会四役と第一次メンバーが集い、各セクションに分かれてのミーティングを行った。

運営部：1月30日(金)に部会を召集。今後の予定や内容の詳細を検討。

提言部：先般のアンケートに目を通した上で問題を見極める。キャッチフレーズは講師決定とのリンクで。

制作部：1月29日(木)に部会を召集。「30周年のあゆみ」については、ビデオにこだわらずCD・DVDまで記録媒体を拡大して検討。

広報部：2月上旬に部会を召集。内容の詳細を検討。

管理部：20周年の予算を目安に支出概算を検討。2月中に予算編成。4月上旬予定のチャリティーコンペの日程を再検討。

7月14日(水)に開催される30周年記念事業は、実行委員会のみには委ねられるものではなく、全会員の高い参加意欲と責任感によって成し遂げられる大事業です。決して傍観者として終始することなく、読者諸兄ひとりひとりに常に強い参加意識を持ち続けていただくことを切に願います。併せて、実行委員会では参加会員を随時募集しております。自薦・他薦は問いませんので、参加表明は水実行委員長までお願いいたします。

(広報：尼子 健)



伝心伝承

当コーナーでは会長、県会長経験者の方々に「中央海」という大海原での羅針盤たる助言・苦言をいただきます。7回目は第24期会長宮廻裕和OBです。



一入会当時の気持ちをお聞かせください

会社で営業部長をしていて入られたんだけど、本当につまらんかった。なんでこげな会に入らないけんだとおもった。まわりは年上の人たちばかりで例会に出ても下向いて座ったまま。皆で飲みに行くこともあまりなかったし、結構不良会員だったよ。5年位してから同じような年代の会員が増えてきて、盛り上がって楽しくなってきたなあ。高校・大学で青春が終わってしまう人もいるけど、僕は中央会でもう一度青春時代を過ごしたね。

一周年事業についてお聞かせください

周年の年はOBの皆さんと接する機会が多くなる。色んなことを先輩から吸収するよい機会だとおもう。積極的に会いに行き行って伝承してもらいたい。ただ、こんな時代だから無理のない周年事業にしてもらいたい。

一中央会で学んだ遊びの部分をお聞かせください

宴会の仕方かな。参加してくれた人をいかに楽しませるかを学んだ。自分自身も馬鹿になれた。色んな個性のある人が集まった会だから結局は仕事にも役にたったね。

一最後に現役に一言をお願いします。

卒会するまでは仕事を一生懸命やって会社を盛り上げてほしい。

【取材を終えて】

少年のような瞳を持つたいへん温厚で優しい方でした。しかし、インタビューの中で自分の仕事について語られるときはライオンのような闘志を感じました。「自分も負けずがんばらねば」と感じさせられた一日でした。宮廻OB、ありがとうございました。

(広報：松江智雄)

言わしてごしない 其の七

「これをするにより1年が始まる。」そういう行事を意外と多くの人々が持っているものです。私の場合、1月2日に行う「ボーイスカウト境1団 新春強歩大会」からスタートします。これは境駅西の通称スカウト広場から美保関・美保神社までの約11キロの距離を歩き、走るものです。「雨ニモ負ケズ、風ニモ負ケズ、雪ニモ・・・」という具合に、天候不良による中止は無く、襪(みそぎ)のような性格も手伝って約30年続いています。

車で20分程度の距離を早い人で40分、ゆっくり歩いて2時間半をかけて目的地を目指します。近年の私は世話係りということもあり車に乗って行ったり来たりですが、逆に歩く皆さんの顔が良く見えます。夫婦で手をつなぎながら歩く人、ひとりで黙々と歩く人、子供と一緒にペースをあわせて歩く人。小さな子は歩かされている感じでトボトボ歩いています。でも、歩き終わると誇らしげにしています。健康志向の人が増えてきたせいか、スカウト行事にもかかわらず子供たちより周りの大人が盛り上がりつつある状況もあったりして・・・。「タイムを計ってくれ！」とか「やっぱり若さ(中学生)には(走りでは)かなわん。」とか色々です。

風景も再確認できます。対岸からの境港・弓浜半島、そして皆生・大山と毎年このことですが新鮮な気持ちで見ることができるのです。通りなれた道でも歩くとき色々な発見があります。この発見は自分の気持ちを一度リセットするからこそ見えたり、感じたりできるのかもかもしれません。そうであるがゆえに、「行わなければならない」よりも「行いたい」という気持ちになります。ボーイスカウトの行事だから広く案内はしていないのですが、家族・親戚と毎年違う顔が増えてきています。

これに限らず、新しい発見を探して皆さんも近場を歩いてみてはどうですか？小さな発見を見つけられるかもしれませんよ。

(広報：中田耕治)

2月例会案内

と き：平成16年2月16日(月) 18時30分～

と ころ：米子全日空ホテル

講 師：鳥取大学医学部生命科学科学科長

押村光雄(おしむら・みつお)氏

演 題：独立行政法人化に伴う産官学の連携について

2月役員会報告

2月定例役員会が平成16年2月2日(月)、食品会館において開催されました。当日の主な議題は以下の通りです。

- (1) 2月例会、3月例会開催の件
- (2) 次年度会長指名推薦の件
- (3) トライアスロンボランティアの件
- (4) 30周年記念事業の件
- (5) その他

※なお、詳細については委員長までご参照ください。

本社工場移転

長谷川貴久会員(国際交流)

所属企業：株式会社ミトクハーネス

住 所：〒683-0362 西伯郡西伯町原251-25 原工業団地

電 話：0859-39-6211(旧番号から変更)

F A X：0859-39-6622(旧番号から変更)

昨年末に移転されました。ますますの御発展をお祈りします。

TEL&FAX番号変更

花園直樹会員(政治行政) 携帯電話：090-7546-6226

井塚 聡会員(情報メディア) 事務所TEL&FAX：0859-31-3399

異動のお知らせ

山根宏典会員(政治行政)

異動先：株式会社ヤマネ産機米子本社

住 所：〒683-0804 米子市米原9-2-36

電 話：0859-33-2845 F A X：0859-34-7010

E-mail：sanki@sanmedia.or.jp

吾輩は親手鷹である！

冬休みに入り、半年振りに息子が帰ってきた。

単身、島根県の益田東高校に野球特待生として入学以来、2度目の帰省である。身長182センチ、体重82キロの大きな体で少しはにかみながら「ただいま帰りました。」という挨拶に、成長した息子を頼もしくおもった。

実は、昨年夏に左ひざに遊離軟骨ができてしまい、手術を受け、その後2ヶ月の入院(ギブス)生活を送ることとなった。野球生命にかかわる大きなケガであった。しかし、周囲の方々の協力と本人の努力により、なんとかピッチングができるまでになった。久しぶりに息子のボールを受けて力がついたことを実感した。ケガが彼に「野球ができない辛さと野球のできる喜び」を教え、また彼もその辛さと喜びを誰よりも強く感じてくれたのではないかとおもう。

中学を卒業したばかりの一人暮らしは心身ともに大変だろう。しかし、甲子園という目標に向かって大好きな仲間たちと大好きな野球に精一杯取り組んでいる息子。短い冬休みではあったがのんびりと過ごし、想いも新たに駅に向かうその後ろ姿を見送った。頑張れよ！

(徳)